

<p>【園目標】】 ・じょうぶな子 ・なかよくする子 ・かんがえる子</p>	<p>【前年度の成果と課題】 ・家庭や地域への情報発信の工夫(保育方針やねらい等) ・地域、保護者との連携の工夫 ・自己肯定感を高める保育内容の工夫</p>
--	--

4段階評価

○保育者☆関係者

観 点		短期目標(評価項目)	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
子 ど も へ の 保 育 ・ 教 育	身 体 的 発 達	体を動かすことを楽しみ安全に遊ぶ。	4	3.5	○園外保育、戸外遊びを十分取り入れることができた。室内外で元気タイムや運動遊びなど、30分以上のチャレンジタイムを設け、全園児で職員も共に楽しむことができた。園外保育も地域の散歩に目的をもって歩くことで、長い距離をしっかりと歩くことができるようになった。 ○室内外に遊具をサーキット的に常備設置し、いつでもチャレンジできる環境を提供できた。 ☆意図的に活動が位置づけられていることで、必要に応じた運動機能が高められている。また、子どもの意欲を引き出すことで、繰り返しの活動にも継続して取り組んでいる。 ☆保育者が安全に気を配り保育していることがよくわかる。苦手なことも取り入れて、慣れるところから始めてほしい。 ☆地域で園児の姿を見るのは嬉しい。どンドン園外保育に出掛けてほしい。上の子が下の子を世話してくれ、分け隔てなく遊ぶ姿がとても良い。
	社 会 的 発 達	挨拶や返事など正しい言葉遣いをする。	3.3	3.8	○地域の方や来園者、保育者にも元気に挨拶ができる子に育ってきている。 ○自分の思いを言葉で伝えようと思えるように関わってきた。また、困ったことなど不安なことも言葉で表せるように、保育者は聞く姿勢を大切にしたことで、自分なりの言葉で伝えようとする姿も増えてきた。 ☆少人数での丁寧な指導で人に対する愛着感が養われることで、挨拶が自然にできている。 ☆異年齢で過ごすことで、当番活動など大きい子の姿から学び、人前での話し方や習慣を身に付けることができる。
	精 神 的 発 達	難しいことやできそうにないことにも、諦めずにやってみようとする。	3.5	3.3	○"難しい"という気持ちに寄り添いながら、思いが実現できるように励ましたり、一緒に取り組んだりしてきたことで"やってみよう"の気持ちを引き出せる雰囲気定着してきている。繰り返し遊べる場や時間の確保、興味を持って子ども同士が育ち合える環境構成の工夫を常に考慮している。 ☆少人数で支援が多くあることで、"自分で考える""自分でやり切る"部分が育ちにくい子もいるため、より適切な支援の検討も必要である。 ☆苦手な作業や運動がある子に対して、一人一人真剣に見てもらえている、今後もお願いしたい。
保 護 者 ・ 地 域 の 子 育 て ・ 家 庭 等 に 対 す る 支 援	保 護 者 支 援	保護者の話を聞いたり、話したりすることを大切にしているか。	3.8	3.3	○必要に応じて個人面談を行い、保護者の不安に寄り添ったり、成長を喜び合ったりした。送迎時間の違いや、祖父母の送迎などで、なかなか親に会えないこともあるため、偏りのないように心がける。 ○一日の様子や活動を個別につたえることに努めることができた。兄弟でそれぞれの担当が話そうと思うと難しい時がある。要点をまとめて話していく。 ☆少人数であることを活かし、丁寧に対応している。 ☆保護者の意見を聞くことは大切なことであり、共通認識をもつことも大事なことである。
	地 域 と の 連 携	園行事や地域行事、小学校との交流に参加する中で、様々な人との関わりを大事にする。	4	3.5	○園外保育(散歩)や地域のコミュニティーバスを利用した地域施設(図書館、消防署、駐在所、郵便局など)への訪問ができ、地域の人々との交流を深めることができた。また、小学校(学園)との情報交流や校舎見学も行うことができ、今後も積極的に行っていきたいと思う。 ○地域の行事(敬老会・もんでこ上石津・文化祭など)に参加したり、地域の公式LINEで発信したりすることができ、園の様子や子どもたちのことを知ってもらうことができた。 ☆園児とも地域の行事でよく会います、出会った時に挨拶を交わし、笑顔で触れ合っています。地域の人も園児の顔を見ることが大切な事であり、地域の人がどんなことをしているのかを知ること大切なる事である。 ☆入学前の4園の交流を積極的に位置づけ、入学後の集団適応に努めていることがよくわかる。
実 施 制 運 全 管 理	危 機 管 理	ヒヤリハットを共有し、幼児の命を最優先に考える	3.3	3.5	○園内研修で講師を依頼し、災害時の危機管理について学び、園内の予測される危険箇所の確認や点検を行い見直しした。地域の連携やマニュアルの見直しを行うことができた。今後も状況常に把握しながら、保護者や地域、学園との連携を図っていく。 ☆隣接する小学校が閉校したため、マニュアルを見直され、安全・危機管理に努められていることがわかる。「~かもしれない」という目で日々注意していくことが大切である。 ☆緊急連絡体制の見直しと共に、地域との連絡体制も考えていくとよい。

- 【次年度に向けて】 ・園の様子から、子どもの育ちについての認識を深めるための家庭(親)への情報発信内容の工夫(保育の方針やねらい・年齢に応じた育ちなど)
- ・地域4園、学園との交流工夫や実施
  - ・一人一人の発達に合わせた自己肯定感を高める保育内容の工夫と実施